

# 長野県 公運協だより

第158号

発行所  
長野県公民館運営協議会  
長野市若里1-1-4  
県立長野図書館内  
電話 (026) 217-6256  
FAX (026) 217-7015

## 一年を振り返って



このたび能登半島で発生した大規模な地震には、改めて自然の力の

の大きさと怖さを思い知らされました。被災地の一日も早い復旧・復興を切に願います。

公民館には学習拠点としての役割に加え、地域コミュニティの維持と持続的な発展を推進するセンタースタッフ的役割、防災拠点としての役割も期待されています。過去の教訓から、災害時においては地域のつながりや絆の強さが被害の軽減や早い復興につながることは明ら

長野県公民館運営協議会

会長 櫻井貞文

かであり、今後も頻発・激甚化が予想される自然災害に備えて、一層の防災・減災学習の推進と、避難所としての機能を高めるための取組を進める必要があると思います。

さて、令和五年度はコロナ禍からの回復が進み、県公運協の事業も通常を取り戻してきました。

令和三年度から準備を進めてきた第四十五回全国公民館研究集会・第六十三回関東甲信越静公民館研究大会長野大会（兼第七十一回長野県公民館大会）は、長野市芸術館を主会場に四年ぶりの参集・対面方式で二日間わたって開催、県内外から多くの皆様の参加をい

ただいて成果を収めることができました。

館長総会・研修会は佐久市で二年ぶりの参集開催、公民館報研修会は木島平村で、主事研修会は下諏訪町で二日間の通常開催となりました。

また、オンラインによる「公民館職員支援講座」も、職場から気軽に参加できる講座として定着し、四回開催することができました。いずれの事業も、役員の方々の始め事業に関わっていただいた皆様、参加いただいた皆様に感謝を申し上げます。

さらに、ここ数年で公民館を取り巻く状況に大きな変化があったことから、公民館職員の手引書として活用いただいている「公民館の基礎知識」を五年ぶりに改訂、令和五年改訂版として発刊しました。多忙な仕事の合間を縫っての編集作業にご尽力いただいた皆様にも感謝を申し上げます。

一年間本当にありがとうございました。これからも、県民一人ひとりが幸せ（ウエルビーイング）を実感できる「ゆたかな社会」実現にむけて長野県公民館の力を発揮していきます。

## 実践から学び合った二日間

### 主事研修会報告

主事会幹事長 三ツ井洋樹

今年度の主事研修会は「この時代だからこそ問う「公民館とは」実践から学ぶ公民館主事の役割」をテーマに、四年ぶりに二日間日程で開催しました。

昨年度の主事アンケートにおいて、「コロナ禍で地域課題への取組に悩んでいる」「ことや、「経験年数の長い主事などから実践事例や体験談を聞きたい」などの意見が多く寄せられたため、経験豊富な主事から地域での実践紹介を通して、主事としての考え方や姿勢



について考えるパネルディスカッションを行いました。

公民館事業は参加者の「数」ではなく、参加者同士の「つながりづくり」が大事であることや、主事は単なる事務局ではなく地域の方と共に考え行動しながら、地域のことを思い行動できる人づくりに繋げていくことなど、本質的な話があり、アドバイザーである白戸先生からも、「地域の連帯感を高め、地域でどう生きるかと考え行動できる人づくり」をこれからも公民館が担って欲しいとエールをいただきました。

全体会後の分散会では、各自の実践を語り合う中で悩みを共有し、これからの実践へと繋がるような意見交換ができ、また、夜の情報交換会では交流を深めることができました。

二日目の分科会においても、様々なテーマで各地の実践を土台にした意見交換がなされ、充実した主事研修会となりました。

最後になりましたが、開催会場の下諏訪町の皆様をはじめ、諏訪地方公民館連絡協議会の皆様には大変ご尽力いただきましたことに感謝申し上げます。

# ブロックニュース 東信

## ボッチャ研修会開催

立科町中央公民館

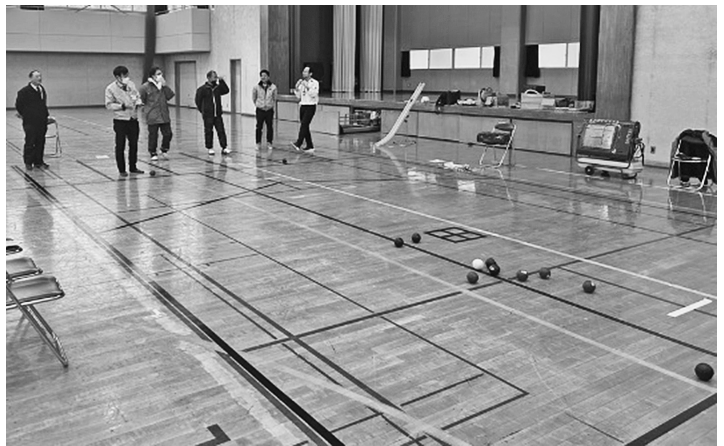
主事 倉根琢真

「ボッチャ」をご存知でしょうか。お手玉のようなボールをどれだけ目標近くに置くことができるかを競うパラスポーツです。東京パラリンピックで日本の選手がメダルを獲得し話題となりました。年齢や障がいの有無にかかわらず、誰もが楽しむことができるスポーツとして、徐々に普及が進んでいます。

東信地区公運協では、この「ボッチャ」をテーマに令和五年度の研修会を開催しました。内容は大きく分けて二つです。

まず、講師に長野県ボッチャ協会の小坂利雄氏を迎え、実際にプレーしながら競技のルールや進め方について学びました。公民館職員との研修会ということで、ルールだけではなく、大会や体験会の運営方法についても説明いただき、有意義なものとなりました。

次に、各公民館の状況に応じた



ボッチャのアレンジ方法について、東信教育事務所の柿沼宏直先生に教えていただきました。ボッチャは誰もが参加しやすい競技ですが、世代間交流やレクリエーション、頭の体操など主催者の目的に合わせてアレンジを加えることができます。コートを狭くしたり、作戦会議の時間を多くしたり、簡単にアレンジできることもボッチャの魅力だと感じました。

皆さんの公民館事業でも地域の状況に合わせたボッチャを楽しんでみませんか。

## リレーコラム

「長野県らしい公民館とは？」

やらされている

## 公民館からの脱却

朝日村公民館

主事 山口純平

朝日村では、令和四年度に六回にわたって「公民館在り方検討委員会」が開かれ、公民館に関わる様々な住民の方々や有識者によって公民館の在り方について議論がなされ、公民館事業変革の大きな契機となりました。

この背景には、昭和二十六年から続く公民館主催「朝日村民体育祭」の開催が危うくなっていたという困難な状況がありました。

朝日村には五つの分館があり、体育祭はこの五分館対抗で運動会プログラムの競技を争う、村を挙げての一大イベントでした。かつて昭和から平成にかけての時代にはお昼を挟んで一日開催で行われ、露天商の出店もあり、応援席ではお酒をたしなみながら盛り上がるなど、地域コミュニティの絆が醸成される場であり、皆がワクワクする行事だったのです。

そんな体育祭ですが、平成に入ると少子高齢化や時代の変化でその存廃について何度も見直しが議論されるようになります。

「マンネリ化」「ニーズに合っていない」「人数割り当てによって始めから出場する競技を決められていた」「やる意味がない」「義務感」「昔は娯楽が少なかった」「続けてほしい」など、様々な意見が出る中、開催方法に大きな変更無く事業が継続されたため、参加者は減少を続けて運営に支障が出るまでになりました。

公民館は、自らの学びを自分たちの手で探究していく場であり、その原動力は「ワクワク」と「楽しい」だったはずです。

過去の時代の成功事例を踏襲していくうちに、いつの間にか住民ニーズから外れた取り組みとなり、「やらされている」になっていたのかもしれない。

コロナ禍を乗り越えたいからこそ、「やらされている」公民館から脱却し、「集いと自己実現の場」という公民館の持つ本来の機能を発揮するため、延命と踏襲という制約を捨てて新たな取り組みにシフトしていきけるのではないだろうか。

## 「ここに生きる

### 千曲川を学ぶ

飯山市公民館

主査 武田美桜

身近な存在でありながら、知らないことも多い千曲川。飯山市公民館では「千曲川学」講座を開催し、これまでに座学と現地学習の二回の講座を行いました。

座学講座では千曲川の流れを構成する地形・地質のお話をはじめ、地域ごとの川の流れの特徴や、地震による土砂災害によって地形が



変化した実例についてお聞きしました。

現在の千曲川の流れは地形・地質の影響を受けながら、長い時間をかけて形成されてきたことを学びました。

現地学習講座では、東御市から立ヶ花まで移動しながら、千曲川を構成する地形や地質を実際に観察して歩きました。

東御市では付近の地層から出土したアケボノゾウの化石に関するお話を聞き、千曲市では森将軍塚古墳から見える地形について一つ一つ解説していただきました。

千曲川講座は令和六年度も継続の予定です。千曲川について多様な視点から学んでいきたいと考えています。

### 公民館へ「おいで」塾

西春近公民館

主事 春日亮太

伊那市内の公民館では、夏休み期間中、小学生向けに午前中は宿題、午後は体験学習をしてもらいます。「おいで塾」という事業をしています。西春近地区には二つの小学



校があり、交流の機会も少ないことから、夏休みだけでなく、独自に冬休みと春休みにも開催することにしました。小学校同士の交流、そして何よりも公民館を身近に感じてもらいたいという思いで開催しています。

夏以外の時期に始めてまだ一年目ですが、「長期休みは公民館へ行く」という意識が少しずつ生まれ、楽しみにしてくれている子どもも増えてきました。冬休みの最終日には「明日も来たい!」「主事さんもっとやってよ!」なんて嬉しい声が沢山聞かれました。「毎日やればいいのに。」というボソッと聞こえた保護者の小声が今も一番心に突き刺さっています。

県教委より

接点・窓口としての公民館

県教委では、コミュニティスクールの取組を推進しています。公民館には、学校が地域と関わる際の接点・窓口としてご協力をいただいているところです。

この度、コミュニティスクール検討会を立ち上げ、去る一月二十五日に、第一回検討会を開催しました。公民館関係者一名を含む八名の出席者で、これからの方向性を意見交換しました。検討会は五回程度行う予定でその様子はYouTubeでも配信します。

今後も、公民館の皆様と連携・協働し、子どもたちの成長を支えていくことが大切と考えていますので、この取組を継続的・効果的なものとしていくために、研修会へのご参加や検討会のご視聴をお願いいたします。

(文化財・生涯学習課  
主任指導主事 篠原靖昌)



公運協だより

編集委員のつぶやき

原村中央公民館

主事 松瀬優和

毎年、小学生向けの講座「ジュニア教室」を開催しています。今まで前例のなかった、職員がジュニア教室の講師を行うということに、挑戦してみました。内容は「紙飛行機実験」です。五種類ほどの紙飛行機を作り、飛ばしました。私としては、子ども達に楽しく学んでほしいと思っていたため、翼の長さや胴体の長さ、飛ばし方を工夫し、滞空時間を延ばすには、速く遠くに飛ばすにはどうすればいいのかを考えるような内容にしました。「よっしゃーめっちゃ飛んだー」「さつきより飛ぶー」とニコニコしながら報告をしてくれる子ども達を見て嬉しくもなり、「楽しく学ぶ」の本質が見えてきたような気がしました。最初は飛ばなくても、何度も作り改良したりと、実験を重ね少しずつ自分の思い描いたものを作る。そのような成功体験をしつつ、「まだまだ」「もっともっと」と沢山挑戦する。

初回としては良いスタートを切れました。途中で材料がなくなり、慌てて作ったことは今後の改善点です。ただ学ぶ、ただ楽しむだけでなく、「楽しく学ぶ」。学ばされるよりも「自ら学ぶ」、そんな教室を開設していけるように努めます。

令和6年度 県公運協事業予定

- 郡市公運協事務局長・主事会代表合同会 (松本市松南地区公民館) 令和六年四月十一日(木)
- 長野県公民館長総会・研修会 (松川町中央公民館) 令和六年五月八日(水)
- 長野県公民館主事総会(書面開催) 令和六年五月八日(水)
- 長野県公民館運営協議会定例総会 (松本市松南地区公民館) 令和六年五月二十三日(木)
- 公民館関係者研修会 (松本市松南地区公民館他) 令和六年六月二十二日(土)
- 第七十二回長野県公民館大会 (駒ヶ根市文化会館他) 令和六年九月二十日(金)
- 第四十六回全国公民館研究集会 第六十四回関東甲信越静公民館研究大会新潟大会 (上越文化会館他) 令和六年十一月七日(木)
- 長野県公民館主事研修会 (東御市中央公民館) 令和六年十一月二十八日(木)
- 公民館職員支援講座(オンライン) 令和六年六月(四回開催予定)

令和5年度 公運協だより編集委員会

ブロック	氏名	所属公民館
委員長	中村美子	上田市丸子公民館
東信	小林俊明	小諸市公民館
中信	山口純平	朝日村公民館
南信	松瀬優和	原村中央公民館
北信	西澤正樹	千曲市上山田公民館

令和5年度全国公民館連合会表彰(長野県)

永年勤続職員表彰

- 小林節子 長野市立大豆島公民館
- 三井道夫 上田市中央公民館
- 小松祐基 東御市中央公民館
- 中村香 池田町公民館
- 駒津恵子 須崎市仁礼コミュニティセンター
- 牧友江 須崎市日滝地域公民館

功労者表彰

- 柏澤由紀一 長野県公民館運営協議会